

あいさつ運動の好事例

瀬戸内市立行幸小学校

(児童数379名 教職員数40名)

広げようあいさつの輪

～運営委員会主催「あいさつボランティア」～

アピールポイント

本校では、「あいさつ」を指導の重点の一つに位置づけており、その一端として運営委員会が中心となってあいさつ運動を行っている。今年度は1の付く日(1日・11日・21日・31日)とPTAあいさつ運動の日(10日)をあいさつ運動の日(昨年度は毎水曜日)とし、運営委員会の児童が登校後、校門に立ってあいさつを行うようにした。さらに、運営委員の提案で、有志児童に参加を呼びかけた。運営委員会と有志児童が共に率先してあいさつすることで、徐々にではあるが、あいさつの輪が全校に広がってきている。

なお、この活動及び参加者を「あいさつボランティア」と銘打ち、活動を行った。

実際の様子



取り組みの概要

■児童生徒の実態

教員があいさつをすればあいさつするが、児童間や地域の方へのあいさつは乏しい。声が小さかったり、うつむいたままだったりする。

■活動内容

運営委員会が全校に呼びかけ、あいさつボランティアを募る。

あいさつ運動の日に、あいさつボランティア(運営委員を含む)が自主的にあいさつ運動に参加する。あいさつボランティア参加児童は、運営委員からスタンプカードにスタンプを押してもらう。

指定した日数のあいさつボランティアに参加した児童に運営委員会が表彰を行う。

■取り組みの参加メンバー

あいさつボランティア(運営委員会 有志児童 担当教員)

■成果・効果

本年度初めての取り組みということで、あいさつボランティア初日には70名を超える参加があった。あいさつを交わす中で自然と笑顔がこぼれ、「おはようございます。」と答えている姿や、顔を上げてあいさつができるようになった姿など、徐々に明るい雰囲気のできるようになってきている。今後、期間を延長したり、年間を通したりするなどして、あいさつボランティアが“当たり前の活動”となり、あいさつの輪がさらに広がっていくよう、運営委員会を中心に全校で話し合い、取り組んでいきたい。